

第49回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 49th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders



テーマ

ことばを紡ぐ
暮らしをつくる
生きるを支える

photograph by Tadatoshi Nakayama

会期 2023年7月1日(土)・2日(日)

会場 関西福祉科学大学 〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11番1号

会長 工藤 芳幸 関西福祉科学大学保健医療学部

第49回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 49th Meeting of Japanese Association of Communication Disorders

会 期：2023年7月1日(土)・2日(日)

会 場：関西福祉科学大学

会 長：工藤 芳幸

関西福祉科学大学 保健医療学部

主 催：日本コミュニケーション障害学会

第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 開催にあたって

第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会

会長 工藤 芳幸

第49回学術講演会(JACD 49)を開催するにあたり、準備委員会を代表してご挨拶申し上げます。大阪開催は第34回大会(2008年)以来、15年ぶりです。2013年に恩師の進藤美津子先生が会長を務められ、過去48回に渡り多くの諸先輩方が繋いでこられた学術講演会の開催をお引き受けするのは容易ではありませんでしたが、世代間の継承や新たなつながりを生む契機になればと思い、準備を重ねてまいりました。

この3年余り、新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢から、大学の講義でも何十本もオンデマンド授業を制作し、リアルタイムのオンライン演習も経験しました。その有用性を知ることができた一方で、人との関わりで必要な「密」が乏しくなっていたことも事実です。第49回は対面と遠隔のいずれのメリットも得られるように、オンデマンド配信によるハイブリッド開催といたしました。各位の事情に応じたかたちでご参加いただけますと幸いです。

JACD 49のテーマは「ことばを紡ぐ・暮らしをつくる・生きるを支える」としました。「暮らしづくり」は、私の最初の職場である重症心身障害児者施設第二びわこ学園(現・びわこ学園医療福祉センター野洲)で掲げられていたものでした。また、「生きるを支える」という言葉は「子どもの発達支援を考える ST の会」代表の中川信子先生の講演タイトルからお借りしました。関係の網の目の中で生きる人間にとって、ことばやコミュニケーションの「障害」は狭い意味での言語機能に閉じたものではなく、暮らしや生きることそのもののさまざまな苦悩や障壁です。それを踏まえた上で、生物・心理・社会、さまざまなレベルでの(またそれらを包括した)学術研究や臨床実践を行っていくことがより一層求められているものと思います。準備委員会ではこうした視点を共有し講師陣やシンポジウム等の企画を検討いたしました。

特別講演の平田オリザ先生には、世間でも何気なく使われるようになった「コミュニケーション能力」とはそもそも何なのか?という根源的なテーマを解題していただきます。竹田契一先生には長年言語臨床や教育に携わってこられたご経験に基づき、次世代に向けたメッセージとなるようなご講演をお願いいたしました。教育講演の加藤寿宏先生は発達の障害をみる上で欠かせない「感覚」の問題についてお話しくさいます。団士郎先生は全ての対人援助に通じる「家族」の捉え方を、都筑澄夫先生には豊富なご経験の中から吃音の進展やその臨床についてご講演いただきます。モーニングセミナーでは、絵本の読み合い活動と言語発達の支援について石川由美子先生、聞こえない人と聞こえる人の協働というテーマで尾中友哉先生、誰もが考えざるを得なくなった災害時の食や口腔からの支援について足立了平先生から学ぶ機会を準備いたしました。そしてシンポジウムでは多文化・多言語の時代の臨床に向けた議論を福永真哉先生、田宮聡先生、東山雄一先生に、地域での言語・コミュニケーション支援について石原明美先生、西村紀子先生、川畑武義先生、横山真司先生に、それぞれのお立場から話題提供をいただきます。水田秀子先生のプレセミナー、分科会や講習会、多くの演題発表も予定されています。この学術講演会が参加者各位の明日の研究や臨床実践の活力となることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

第49回日本コミュニケーション障害学会 学術講演会の開催にあたって

日本コミュニケーション障害学会
理事長 吉畑 博代

第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会は、関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の工藤芳幸学術講演会長のもとで、2023年7月1日(土)と2日(日)に、大阪府柏原市内にある関西福祉科学大学で開催されます。

大阪府で本学会の学術講演会が開催されるのは2008年の第34回大会以来、15年ぶりです。前回は大阪市の中心部となる中之島の中央公会堂が会場でしたが、今回の学術講演会が開催される柏原市は、ブドウの産地として知られており、大阪の都市部とは一味違う趣を感じさせられる所です。

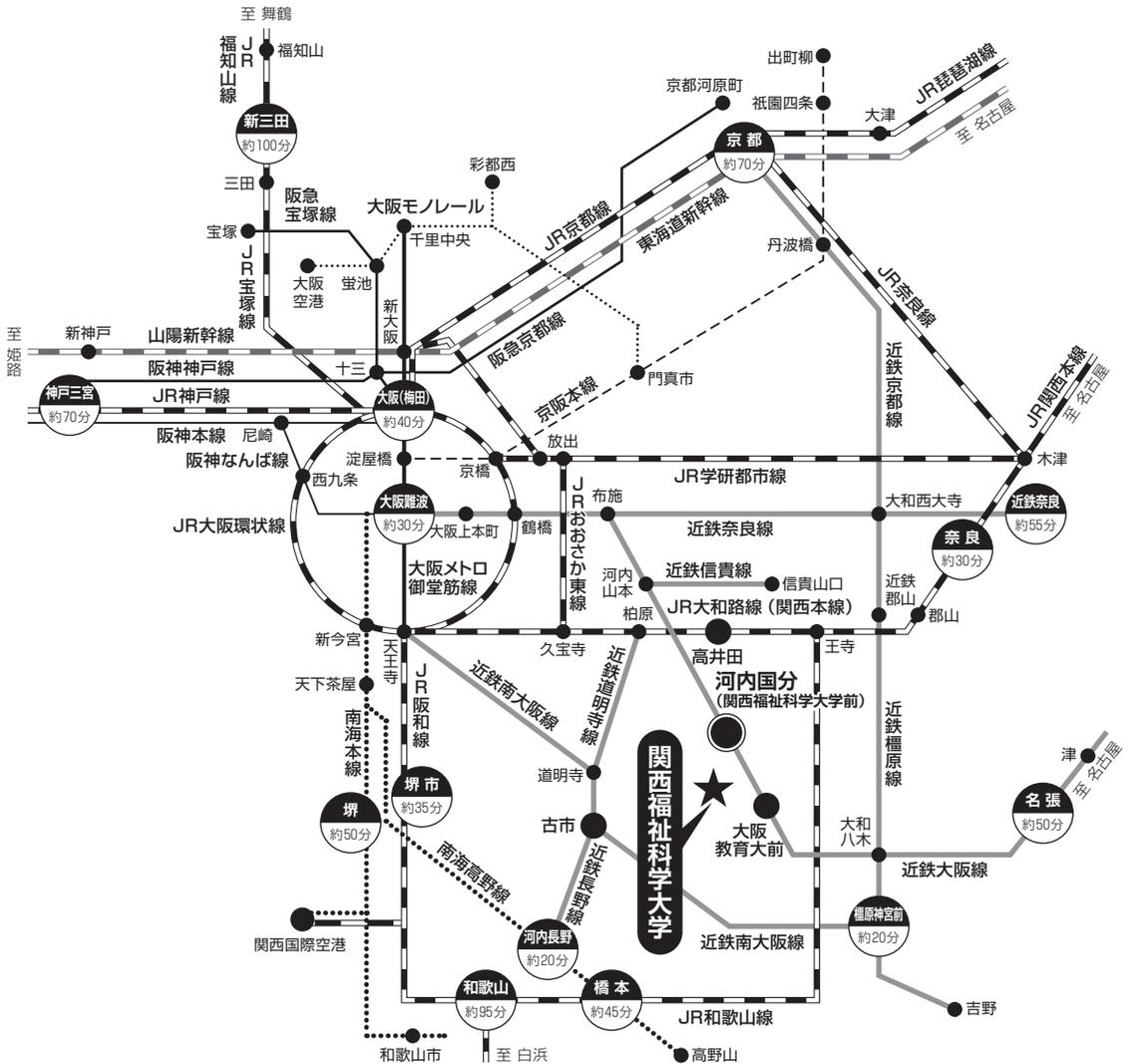
5月8日からは、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、社会経済活動の制限が大幅に緩和されることとなります。また、コロナ禍が落ち着いたのは昨年度あたりからは、諸学会の学術講演会も対面形式が多くなってまいりました。我々日本コミュニケーション障害学会も、この3年間の経験で、オンライン開催のメリットを数多く学びました。今回の学術講演会では「ことばを紡ぐ・暮らしをつくる・生きるを支える」をテーマにして、対面形式だけでなく、事後のオンデマンド配信も予定しています。会場に直接出向くことの難しい遠隔地にお住まいの皆様、職場・家庭の諸事情で現地参加が難しい皆様にとっては朗報だと思います。現地での対面形式に参加することで得られる新たな学びとの出会いもあれば、オンラインによって繰り返し視聴することで得られる深い学びの醸成もあると思います。各自のお考えや置かれている状況に応じて、さまざまな学びのスタイルが構築されることを期待いたします。本会では、一般演題発表に加えて、2つの特別講演、3つの教育講演、3つのモーニングセミナー、2つのシンポジウムが予定されており、多岐にわたる興味深い企画となっています。ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、活発な意見交換を行っていただきたいと思ひます。

また学術講演会の楽しみは、脳への知識の供給だけでなく、心と体への栄養も補給できる所です。コロナ禍以前に学術講演会の1日目終了時に行っていた懇親会は、引き続き、開催を見送ることになりました。とはいえ、柏原市には西日本最古のワイナリーがあり、柏原市で採れたブドウで造った河内ワインが楽しめます。会場の最寄り駅である近鉄大阪線河内国分駅からは、大阪の有名な繁華街である鶴橋や難波などへのアクセスも良好で、大阪名物のタコ焼きやお好み焼きなどおいしい食べ物が沢山あると伺っています。学術講演会の合間に少し足を延ばして、心身共に日々の緊張を解き放し、楽しんでいただきたいと思ひます。

なお、本年3月に、本学会の名誉会員であり、STのパイオニアとしてコミュニケーション障害領域の発展に多大なる貢献を尽くされ、後輩の育成に力を注がれた岡崎恵子先生がご逝去されました。私たちは、先達のスピリットを受け継ぎながら、本領域の更なる発展にたゆまぬ努力を積み重ねていくことを誓いつつ、心より追悼の意を表します。

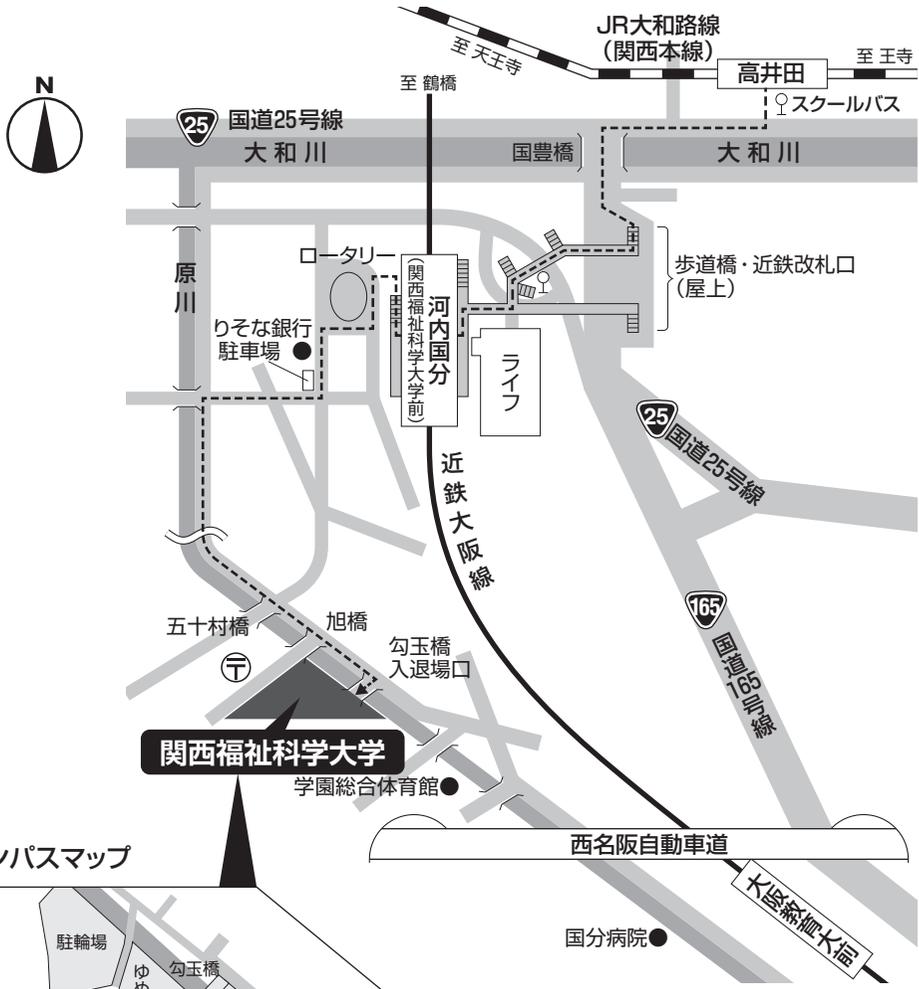
末筆となりますが、学術講演会長をお引き受けいただいた工藤芳幸先生、事務局長の不破真也先生、実行委員と事務局の諸先生方、また会場を提供いただいた関西福祉科学大学とその諸先生方に重ねて御礼申し上げます。

交通案内

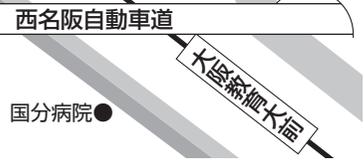


会場：関西福祉科学大学 (〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11番1号)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ●大阪(梅田)から …… 約40分 | ●神戸三宮から …… 約70分 |
| ●奈良から …… 約30分 | ●京都から …… 約70分 |



キャンパスマップ



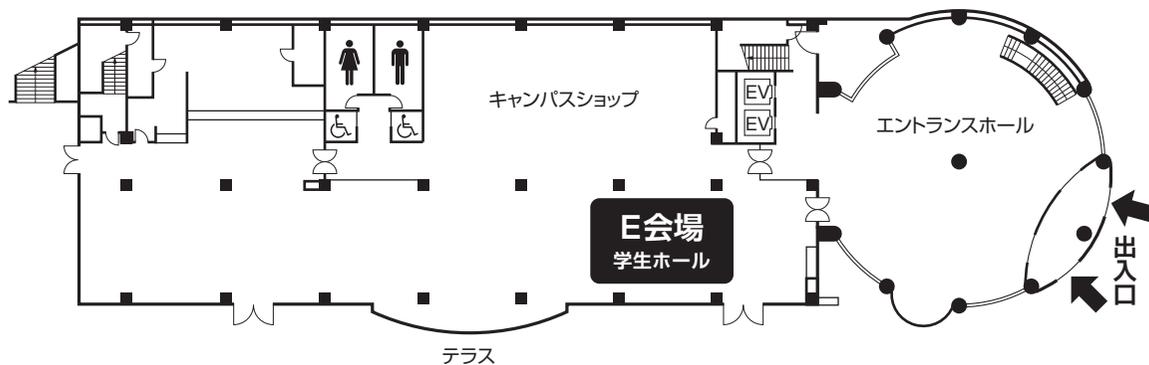
----- 徒歩ルート

- 近鉄大阪線
「河内国分(関西福祉科学大学前)」
(急行停車) 駅下車 徒歩約12分
- JR大和路線(関西本線)
「高井田」駅下車 徒歩約25分

会場案内

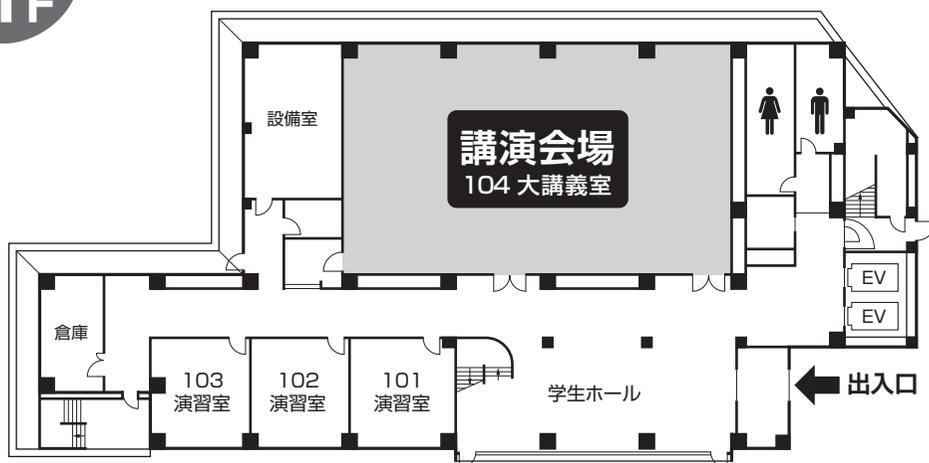
大学本館

1F



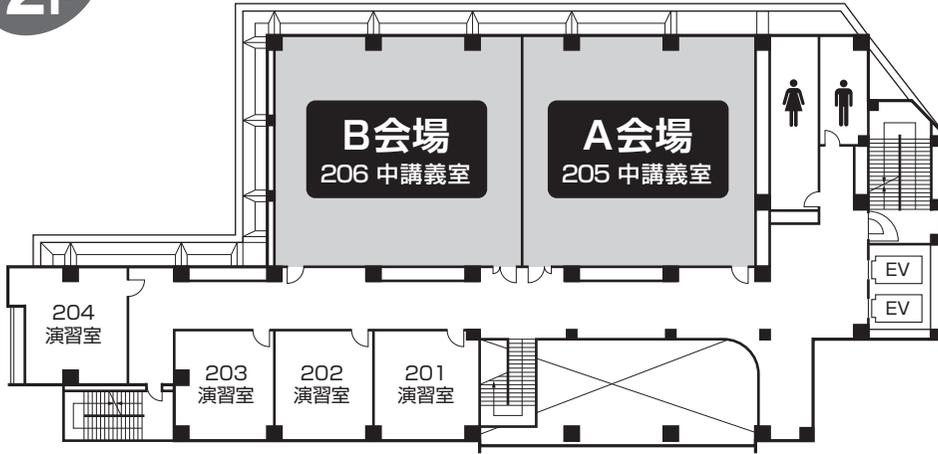
大学4号館

1F

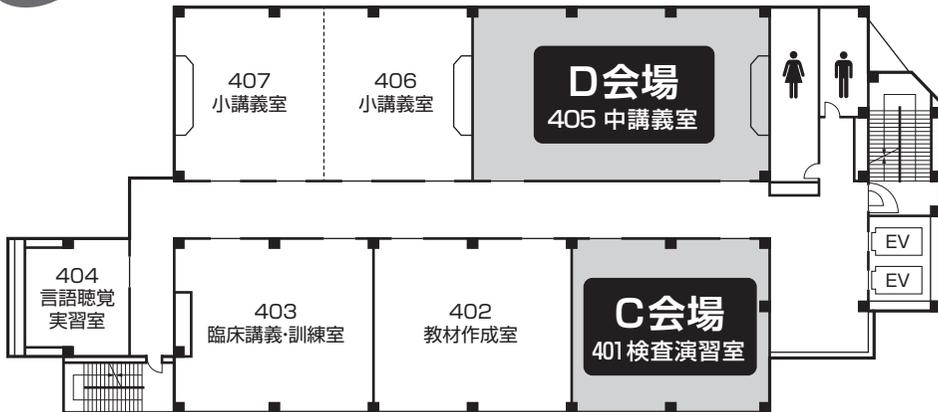


大学4号館

2F



4F



ご 案 内

■事前参加受付

事前参加登録をお願いします。「第49回日本コミュニケーション障害学会」HP (<https://jacd49.secand.net/>) からお申し込み願います。尚、事前参加登録期間は2023年6月15日までとなっております。

また、今回は事前参加登録のみになっており、当日参加申し込みは実施いたしませんのでご注意ください。

事前申込学会参加費

会 員：10,000円、非会員：11,000円、学生：1,000円

(その他)

懇親会につきましては、不開催と致します。

予 稿 集：1,000円

HPからの参加登録で「参加仮登録状態」となります。参加仮登録後、1週間以内に必ず参加費を下記口座へご入金ください。お振込がない場合は、登録を抹消いたします。また、筆頭演者の場合は発表登録を取り消させていただきます。

お振込みをもって参加登録が完了いたします。

■振込先口座

口座番号：00900-9-198116

口座名義：日本コミュニケーション障害学会学術講演会

※入金の際の手数料はご自身でご負担いただきますようお願いいたします。

最新の情報につきましては、本学術講演会 HP <https://jacd49.secand.net/> をご確認ください。

■参加証と領収書

5月21日(日)までに参加申込をお済ませの方(入金完了者)には、6月上旬に参加証・領収書をご登録のご住所にお送りいたします。現地参加予定の方は「参加証」を必ずご持参ください。

5月22日(月)以降の参加登録者(入金完了者)については、現地参加の方には当日会場で抄録誌と参加証・領収書をお渡しします。最初に「参加受付」までお越しください。

参加証ホルダーは、会場にて配布予定です。

オンデマンド参加のみの方には、学会終了後に参加証・領収書をお送りいたします。

■入場の受付について

現地参加者の把握のため、大学4号館1階に設置予定の「参加受付」にて、受付を致します。会場へお越しの際は、まずは受付をお済ませいただくようお願いいたします。

※初日に受付をお済ませいただいた方は、2日目の受付は必要ございません。

2日目からご参加の方も、最初に受付へお越しくください。

※事前申し込み制のため、当日の参加申し込みは実施いたしません。

予稿集は、受付にて1冊1,000円で販売しております。

お支払いは現金のみでお願い申し上げます。釣り銭が不要なようにご準備願います。

■進 行

【口頭発表】

1. 座長の方へ

- (1) 当日、ご到着を確認させていただきますので、会場到着後は速やかに大学4号館1階の「演者受付」へお越しくください。受付にてご到着の確認をさせていただきます。
- (2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- (3) 1演題の発表は7分、質疑応答は3分です。
- (4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。
- (5) ご体調などにより当日の参加ができない場合は、開催事務局にメールにてご連絡をお願い申し上げます。この場合は、実行委員が臨時座長を務めさせていただきます。

2. 演者の方へ

- (1) ご体調などにより当日の発表ができない場合は、開催事務局にメールにてご連絡をお願い申し上げます。演題発表の取り消しをさせていただきます。

(2) 発表用データの準備について

会場にはPCを配置し、事前にご提出いただいた発表用データを事務局がPCに保存いたします。同程度スペックのPC(発表データ保存済み)を4号館1階の「スライド確認受付」にご用意いたしますので、ご希望の方は事前にご確認ください。

(3) 発表用データについて

- ① 発表は会場設置のPC(Windowsのみ)を使用させていただきます。
- ② 用意しているコンピュータのOSとアプリケーションは以下の通りです。

OS：Windows10またはWindows11

プレゼンテーションソフト：Microsoft Power Point 365

スライドサイズ 16：9

- ③ 動画・音声等を使用される場合は、必ずファイルに「動画」「音声」を挿入してください。「動画」「音声」を「リンク」でつながれた動画や音声は会場では再生できません。

- ④ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名を「演題番号_発表者の姓_動画・音声の有無」に統一して下さい(英数字は半角)。

例)演題番号1A-01、大阪ハナコさんの場合は「1B-01_大阪.pptx」となります。

動画がある場合は「1A-01_大阪_動画.pptx」

音声がある場合は「1A-01_大阪_音声.pptx」

動画と音声がある場合は「1A-01_大阪_動画音声.pptx」とのファイル名にしてください。

- ⑤文字化けを防ぐために、OS標準フォントをお使いください。
- ⑥音声記号のフォントの多くは「特殊記号」ですので、PCが異なると文字化けの可能性が高くなります。お手数ですが、音声記号は画像として貼り付けてください。
- ⑦発表データは学会終了後、事務局にて消去します。

(4) 発表について

- ①次演者は前もって会場内左手前方の「次演者席」にご着席ください。
- ②PCの操作は原則ご自身(演者)でお願いします。
操作支援・補助が必要な場合は各会場の映像担当者にお命じください。
- ③発表時間は7分、質疑応答は3分です。
発表終了1分前と終了時に合図をいたします。終了時間を厳守してください。
- ④後日のオンデマンド配信のために、録画させていただきます。

3. 質疑応答

- (1) 質疑応答は1演題につき3分です。
- (2) 質疑応答は座長の指示に従ってください。
- (3) 発言者は最初に所属・氏名を述べてください。
- (4) 録音を致しますので、必ずマイクロフォンを通してご発言ください。
後日のオンデマンド配信のために当日のご質問内容を録音させていただきます。



【ポスター発表】

1. 発表者の方へ

(1) ポスターの掲示作業について

- ①大学本館1階学生ホールのポスター会場で「ポスター受付」を行ってください。
- ②ポスターは学会が用意した所定のパネル(縦190 cm×横90 cm:1面)に貼り付けてください。掲示用の押しピン類は「ポスター受付」で用意いたします。
- ③ポスターの貼り付けは1日目(7月1日)10時30分までをお願いいたします。

④演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(20cm×20cm)。その横のスペースに演題名・演者名・所属名を掲示してください。

(2) 質疑応答について

ポスター発表では座長は付けず、セッションごとに指定された時間帯(30分)を設け、参加者の皆様と自由に質疑応答をしていただきます。演者の方は、指定された時間帯には必ずご自身のポスター前に待機してください。ポスターは2日間掲示しておきますので、指定の時間帯以外にも自由に討論していただくことができます。

質疑応答1日目

11時40分～12時10分 聴覚障害

16時00分～16時30分 失語症・高次脳機能障害、構音障害・発話障害(小児・症例)

質疑応答2日目

11時20分～11時50分 発達・発達障害、重度重複障害

14時00分～14時30分 発達・基礎研究、養成教育、他職種との協働

(3) ポスター撤去作業について

①撤去作業は2日目(7月2日)の14時30分～16時30分の間に行ってください。

②上記、時間帯に撤去されなかった場合には、事務局で廃棄いたしますのでご承知おきください。

(4) ポスターデータの提出について

学術講演会終了後、一定期間 Web 会場にてポスターの閲覧ができるようにいたします(質疑応答はなし)。ホームページのプレゼンテーションファイルの提出先に、PDF 形式、A4版でご提出をお願いいたします。

ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名を「演題番号_発表者の姓」に統一して下さい(英数字は半角)。

例)演題番号 1P-01、大阪太郎さんの場合は「1P-01_大阪.pdf」となります。

■クローク

大学4号館1階にクロークを設けます。

7月1日(土)、2日(日)とも、8時15分よりクローク(一時荷物預かり)を開きます(先着順)。

■お知らせ

1. 学会発表奨励賞授与式

7月2日(日)11:50～講演会場(D4-104)にて開催します。

2. 企業展示と休憩および昼食

- (1) 大学本館1階にて企業展示・書籍販売を行います。
- (2) 大学本館1階、大学4号館1～3階の空き教室は参加者休憩場所としてご利用いただけます。すべての部屋で飲食可能ですが、それ以外の教室や建物についてのご利用は禁止となります。また、ゴミはできる限りお持ち帰りいただくようご協力をお願い申し上げます。
- (3) 飲食につきましては、大学食堂、売店、キッチンカーが開店予定です。ぜひご利用ください。
- (4) 感染症対策につきましては、新型コロナウイルスが5類移行となりましたが、政府の指針に沿ったご対応をお願いいたします。
- (5) 喫煙場所につきましては、当日案内板を掲示いたしますので、ご確認ください。

3. その他

拾得物・遺失物のお届け、学会本部に御用の方は大学4号館1階総合受付にお越しください。参加者のお呼び出しには応じられません。

■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、7月1日・2日(土・日)11:00～14:00に重度重複障害のある子どものコミュニケーションを考える分科会(展示会およびミニ講座・一般参加可)、7月1日(土)16:30～17:30に言語発達障害研究分科会、16:30～18:30に第5回口蓋裂言語講習会、を開催いたします。会場はすべて、大学4号館です。「重度重複障害のある子どものコミュニケーションを考える分科会」のみご参加の方は専用受付を設けますので、参加希望者は直接そちらへお越しください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- (1) 言語発達障害研究分科会：大学4号館2階205教室(A会場)
- (2) 第5回口蓋裂言語講習会：大学4号館4階401教室(C会場)
- (3) 重度重複障害のある子どものコミュニケーションを考える分科会：大学4号館405教室(D会場)

■学会誌用の抄録原稿

発表者の方は、「コミュニケーション障害学」掲載用の発表抄録原稿を、以下の要領で提出してください。

- (1) 『『コミュニケーション障害学』掲載用一般演題抄録原稿執筆要項』を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、手順にそって原稿を作成してください。メールで件名「抄録原稿送付(演題番号)」とし、「添付ファイル」で学会事務局アドレス宛(jacd49osaka@gmail.com)にお送りください。
受付期間は7月1日(土)から7月14日(金)正午までの期間です。
執筆要項ダウンロード先 <http://jacd48.secand.net/annai.html>
- (2) 抄録は「コミュニケーション障害学」(2023年12月末刊行予定)に掲載する予定です。

日 程 表

第1日目 7月1日(土)

	講演会場 大学4号館104	A会場 大学4号館205	C会場 大学4号館401	D会場 大学4号館405	E会場 大学本館1F学生ホール	
8:20	8:20～ 8:50～9:00 開会・会長挨拶	開場・受付開始 (大学4号館1階学生ホール)				
9:00	9:00～10:30 特別講演 1 わかりあえない ことから —コミュニケーション 能力とは何か?— 平田 オリザ 座長: 工藤 芳幸	9:00～9:30 一般演題 読み書き(支援)			9:00 } 10:00 ポスター 掲示	
10:00		9:40～10:10 一般演題 発達(基礎)			10:00 } 18:00 ポスター 展示	
11:00	10:40～12:10 教育講演 1 神経発達症の 感覚処理障害 (sensory processing disorder) 加藤 寿宏 座長: 松下 真一郎	10:40～11:10 一般演題 失語症(意思疎通支援)		11:00～14:00 重度重複障害の ある子どものコ ミュニケーション を考える分科会	11:40～ 12:10 聴覚障害	
12:00	12:10～13:10	11:20～12:10 一般演題 成人期コミュニケー ション障害・摂食嚥 下障害(調査)			質疑 応答	
		昼 休 憩				ポ ス タ ー 展 示
13:00	13:10～14:40 教育講演 2 家族関係を生きる 団 士郎 座長: 工藤 芳幸	13:10～14:00 一般演題 発達支援(調査)				
14:00		14:10～14:30 一般演題	発達支援 (学校教育との連携)			
15:00	14:50～16:20 教育講演 3 進展段階第3層、 4層の吃音児者 の悪循環と脱却 について 都筑 澄夫 座長: 圓越 広嗣	14:50～15:30 一般演題 発達支援(症例)				
16:00		15:40～16:10 一般演題 聴覚障害		16:00～16:30 失語症・高次脳機能 障害、構音障害・発 話障害(小児・症例)	質疑 応答	
17:00		16:30～17:30 言語発達障害 研究分科会	16:30～18:00 第5回 口蓋裂言語検査 講習会		ポ ス タ ー 展 示	
18:00						

第2日目 7月2日(日)

	講演会場 大学4号館104	A会場 大学4号館205	B会場 大学4号館206	D会場 大学4号館405	E会場 大学本館1F学生ホール
8:30 9:00	8:30～	開場・受付開始 (大学4号館1階学生ホール)			
10:00	9:10～10:10 モーニングセミナー 1 意味づくりを育む 絵本と遊び 石川 由美子 司会：工藤 芳幸	9:10～10:10 モーニングセミナー 2 聞こえない人と聞こえる人が協働するために 大切なこと～サイレントボイスの実践を通して～ 尾中 友哉 司会：小野寺 宰	9:10～10:10 モーニングセミナー 3 災害時の口腔保健・医療の重要性－医療・介護職が知っておくべき関連死予防の基礎知識 足立 了平 司会：辰巳 郁子		9:00～15:10 ポスター展示
11:00	10:20～11:50 特別講演 2 言語・コミュニケーション臨床において伝えたいこと 竹田 契一 座長：工藤 芳幸	10:20～11:10 一般演題 構音障害 (小児)		11:00～14:00 重度重複障害のある子どものコミュニケーションを考える分科会	11:20～11:50 質疑応答 発達・発達障害、重度重複障害
12:00	11:50 表彰・次期学会長挨拶	11:20～11:50 一般演題 失語・高次脳機能障害 (支援・症例)			12:00～12:50 ポスター展示
13:00	12:00～12:50 昼休憩	12:50～13:40 一般演題 言語発達障害 (評価)			
14:00	12:50～14:20 シンポジウム 1 多言語使用の高次脳機能障害 シンポジスト： 福永 真哉 田宮 聡 東山 雄一 座長：中村 光	13:50～14:30 一般演題 脳性麻痺・AAC			14:00～14:30 質疑応答 発達・基礎研究、養成教育、他職種との協働
15:00	14:30～16:00 シンポジウム 2 地域におけるコミュニケーション支援の展開 シンポジスト： 石原 明美 川畑 武義 西村 紀子 横山 真司 座長：久保田 功	14:40～15:10 一般演題 吃音			15:00～16:00 ポスター展示
16:00	16:00～ 閉会挨拶				

プログラム

特別講演1 7月1日(土) 9:00～10:30

講演会場(大学4号館104)

座長：工藤 芳幸(関西福祉科学大学)

わかりあえないことから —コミュニケーション能力とは何か?—

平田 オリザ 芸術文化観光専門職大学

特別講演2 7月2日(日) 10:20～11:50

講演会場(大学4号館104)

座長：工藤 芳幸(関西福祉科学大学)

言語・コミュニケーション臨床において伝えたいこと

竹田 契一 大阪教育大学 名誉教授
大阪医科薬科大学 LD センター 顧問

教育講演1 7月1日(土) 10:40～12:10

講演会場(大学4号館104)

座長：松下 真一郎(こども発達支援 MOMO の実)

神経発達症の感覚処理障害(sensory processing disorder)

加藤 寿宏 関西医科大学 リハビリテーション学部 教授

教育講演2 7月1日(土) 13:10～14:40

講演会場(大学4号館104)

座長：工藤 芳幸(関西福祉科学大学)

家族関係を生きる

団 士郎 仕事場D・A・N 主宰
漫画家
立命館大学 客員教授

教育講演3 7月1日(土) 14:50～16:20

講演会場(大学4号館104)

座長：圓越 広嗣(関西電力病院)

進展段階第3層、4層の吃音児者の悪循環と脱却について

都筑 澄夫 都筑吃音相談室

シンポジウム1 7月2日(日) 12:50～14:20

講演会場(大学4号館104)

座長：中村 光(岡山県立大学)

[多言語使用の高次脳機能障害]

S1-1 多言語使用と失語症

川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 福永 真哉

S1-2 多言語使用と認知症

姫路市総合福祉通園センター
広島市こども療育センター 田宮 聡

S1-3 Foreign accent syndrome について

横浜市立大学 医学部 神経内科学・脳卒中医学 東山 雄一

シンポジウム2 7月2日(日) 14:30～16:00

講演会場(大学4号館104)

座長：久保田 功(近畿大学病院)

[地域におけるコミュニケーション支援の展開]

S2-1 失語症デイサービスの運営を通して見た地域における支援

デイサービスことばの泉 石原 明美

S2-2 地域におけるコミュニケーション支援の展開： 小児領域の訪問リハビリテーション

大阪保健医療大学 言語聴覚専攻科 川畑 武義

S2-3 オンラインを使ったコミュニケーション支援

NPO 法人 Re ジョブ大阪
(株)くるみの森 西村 紀子

S2-4 こどものミカタを拡げたい

～コミュニケーションの多様性を認め合う地域づくりのために～

NPO 法人オルケスタ 横山 真司

モーニングセミナー1 7月2日回 9:10～10:10

講演会場(大学4号館104)

司会：工藤 芳幸(関西福祉科学大学)

意味づくりを育む絵本と遊び

石川 由美子 宇都宮大学 共同教育学部/地域創生科学研究科

モーニングセミナー2 7月2日回 9:10～10:10

A会場(大学4号館205)

司会：小野寺 宰(四天王寺悲田院児童発達支援センター)

聞こえない人と聞こえる人が協働するために大切なこと

～サイレントボイスの実践を通して～

尾中 友哉 NPO 法人 Silent Voice 代表理事

モーニングセミナー3 7月2日回 9:10～10:10

B会場(大学4号館206)

司会：辰巳 郁子(関西福祉科学大学)

災害時の口腔保健・医療の重要性

—医療・介護職が知っておくべき関連死予防の基礎知識

足立 了平 医療法人社団ときわ病院 歯科・歯科口腔外科

分 科 会

7月1日(土) 16:30～17:30

A会場(大学4号館205)

言語発達障害研究分科会

7月1日(土)・7月2日(日) 11:00～14:00

D会場(大学4号館405)

重度重複障害のある子どものコミュニケーションを考える分科会

7月1日(土) 16:30～18:00

C会場(大学4号館401)

第5回 口蓋裂言語検査講習会

一般演題（口頭発表）

第1日目 7月1日(土)

読み書き（支援） 9:00～9:30

A会場(大学4号館205)

座長：石坂 郁代(北里大学)

- 1A-01** ジョリーフォニックス(JP)指導効果検証の試み
—JP受講の有無が及ぼす影響；中3時の成績比較から—

新潟大学 教育学部 入山満恵子

- 1A-02** ディスレクシアの子が楽しく通える学校とは

NPO 法人オルケスタ ぐるぐる 横山 真司

- 1A-03** 書字困難を主訴とする不登校児と不登校傾向を示す同胞に対する
言語評価の一考察

自治医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 金子弥栄子

発達（基礎） 9:40～10:10

A会場(大学4号館205)

座長：井崎 基博(熊本保健科学大学)

- 1A-04** 幼児の読みの発達と音韻意識の関係
—流暢性に焦点を当てて—

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 中川 未菜

- 1A-05** 高機能自閉スペクトラム症のある子どもの感情語理解
—感覚との関連から—

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 西 薫

- 1A-06** 幼児期における他者の認識内容についての理解と言語発達

上智大学大学院 言語科学研究科 言語学専攻 言語聴覚研究コース 矢島 礼子

失語症（意思疎通支援） 10:40～11:10

A会場(大学4号館205)

座長：黒田 健司(大阪医科薬科大学病院)

- 1A-07** 大阪府における失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業の実施について

社会医療法人 警和会 大阪警察病院 宮本 光江

1A-08 大阪府における失語症者向け意思疎通支援者養成研修の実習について

社会医療法人 警和会 大阪警察病院 宮本 光江

1A-09 失語症者向け意思疎通支援者養成研修における要点筆記技術の習得支援

県立広島大学 総合学術研究科 保健福祉学専攻 三上 裕子

成人期コミュニケーション障害・摂食嚥下障害（調査） 11:20～12:10 **A会場**(大学4号館205)

座長：竹中 啓介(昭和女子大学)

大塚 佳代子(関西福祉科学大学)

1A-10 失語症者のコミュニケーションツールの利用状況について
—携帯電話を中心として—

地域活動支援センターすももクラブ 大槻 美保

1A-11 失語症者の意思決定場面における言語聴覚士の関与状況
—回復期リハビリテーション病棟を対象とした調査から

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻 市川 勝

1A-12 CADL 実用コミュニケーション能力検査の改訂に向けたアンケート調査

県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション障害学コース 坊岡 峰子

1A-13 療養型病棟にて摂食嚥下支援チームが関わった結果についての考察

社会医療法人 清恵会 清恵会三宝病院 濱田ゆかり

1A-14 失語症のある人への社会参加支援の効果
～質的研究による社会参加の変容～

学校法人西大和学園 大和大学 保健医療学部 言語聴覚学専攻 佐藤 俊彦

発達支援（調査） 13:10～14:00 **A会場**(大学4号館205)

座長：宮地 ゆうじ(大阪人間科学大学)

1A-15 健診事後相談における言語聴覚士の役割：
会津若松市わんぱく相談から支援につながった一例を通して

竹田綜合病院 リハビリテーション部 羽入明日香

- 1A-16** 療育現場で ST が担える役割
～保護者アンケートの分析より～
NPO 法人オルケスタ ぐるぐる 横山 真司
- 1A-17** 離島における言語発達障害児へのハイブリット支援の取り組み
国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 岩崎 淳也
- 1A-18** 当院における小児言語外来の内訳
昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 平嶋 朋佳
- 1A-19** がん情報の「わかりやすい版」の汎用可能性
—知的障害者向けの情報作成と医療関係者の活用による評価から—
立正大学 社会福祉学部 打浪 文子

発達支援（学校教育との連携） 14：10～14：30 A 会場（大学4号館205）

座長：畦上 恭彦（国際医療福祉大学）

- 1A-20** 病院勤務の言語聴覚士による通級指導教室担当教師支援の取り組み
近畿大学病院 リハビリテーション部 久保田 功
- 1A-21** 特別支援学校（知的障害）教師と言語聴覚士を目指す学生の
資質向上に向けた共同教材作り
広島県立黒瀬特別支援学校 大本美智子

発達支援（症例） 14：50～15：30 A 会場（大学4号館205）

座長：岩崎 淳也（国際医療福祉大学）

- 1A-22** てんかんの既往がある言語発達障害の1例：
小児発語失行に対するかな文字を介した指導
武蔵野徳洲会病院 伊藤 敬市
- 1A-23** 知的障害のある児童のやりとりを促すわらべうたあそびの実践
広島県立黒瀬特別支援学校 大本美智子
- 1A-24** 学齢期に発症した小児失語症例に対する言語訓練
大阪市立総合医療センター 小児言語科 日浦 麻緒

- 1A-25** 予期不安の高いASD児が自信をもって集団活動への参加が可能になるまで
— 保育所等訪問による連携を通じて —

一般社団法人いちごいちえ Chico Bote 中村真理香

聴覚障害 15:40～16:10

A会場(大学4号館205)

座長：森 尚彫(関西福祉科学大学)

- 1A-26** 聴覚障害児の療育の現況と課題

児童発達支援センター 富士見台聴こえとことばの教室 伊集院亮子

- 1A-27** 補聴器装用者における食事時の補聴器の装用状況とその影響について

北里大学 医療衛生学部 言語聴覚療法学専攻 澤田 拓也

- 1A-28** 一側性難聴者に対する配慮に関する調査

群馬パース大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 岡野 由実

第2日目 7月2日回

構音障害(小児) 10:20～11:10

A会場(大学4号館205)

座長:井上 直子(大阪母子医療センター)

2A-01 学齡兒童の構音障害と協調運動および感覚処理能力との
関連性についての検討

北里大学大学院 医療系研究科 中井梨沙子

2A-02 早期の文字導入が音声発音の習得を促した一症例

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 林 勇一

2A-03 ナゾメーター検査による鼻咽腔閉鎖機能評価に用いる
日本語発話課題の長さに関する検討

八千代市児童発達支援センター ことばと発達の相談室 佐々木美晴

2A-04 軽度の開鼻声を呈した構音障害症例の評価及び訓練経過

昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 浅野 ふみ

2A-05 音韻発達が構音に影響を与えた事例について

栃木県立リハビリテーションセンター 施設部 通園療育課 佐藤 文子

失語・高次脳機能障害(支援・症例) 11:20～11:50

A会場(大学4号館205)

座長:宮本 光江(大阪警察病院)

2A-06 アルツハイマー型認知症疑いのある特徴的な発話を呈する一例

関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 辰巳 郁子

2A-07 前交通動脈未破裂脳動脈瘤の開頭クリッピング術後に
顕著な記憶障害を呈した症例

東京医科大学 八王子医療センター 佐藤麻衣子

2A-08 てんかん重積発作後に漢字の書字障害を来した症例の訓練経過

社会福祉法人浴風会 浴風会病院 永沢 梨絵

- 2A-09** ことばの教室への入級審査に用いる発話・言語能力包括的アセスメント法の開発(1): 相談歴に関する項目の検討
筑波大学 人間系 宮本 昌子
- 2A-10** ことばの教室への入級審査に用いる発話・言語能力包括的アセスメント法の開発(2): 障害種別の項目の検討
目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 今富 摂子
- 2A-11** ことばの教室への入級審査に用いる発話・言語能力包括的アセスメント法の開発(3): 基準値の検討
川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科 飯村 大智
- 2A-12** 文の多様性による早期言語発達評価法の開発(第2報)
—30ヶ月および36ヶ月定型発達児の文の多様性—
埼玉県立小児医療センター 遠藤 俊介
- 2A-13** 異なり語彙数の早期発達の变化と文の多様性との関係について
—30ヶ月および36ヶ月定型発達児のデータから—
地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院 金屋 麻衣

- 2A-14** 脳性麻痺児の姿勢コントロールと食べる機能の関連
東京都立北療育医療センター 虫明千恵子
- 2A-15** 外来食事指導における管理栄養士との共同アプローチ
東京都立北療育医療センター 湯川 祐子
- 2A-16** アクセシビリティの活用
～スマートリモコンの導入により家電のコントロールが可能となった一例～
ことばの相談室はる 松木るりこ
- 2A-17** これからのコミュニケーション支援に求められること
～先入観で可能を不可能にしない支援～
日高見訪問看護リハビリステーション 二階堂 静

2A-18 吃音外来を受診した成人の就労状況

国立障害者リハビリテーションセンター 酒井奈緒美

2A-19 支援を受けた経験のない成人吃音者の吃音にまつわる経験：回顧的研究

広島大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 川合 紀宗

2A-20 年表方式のメンタルリハーサル法における
吃音改善に影響を及ぼす因子と効果出現期間について

社会医療法人生長会 ベルピアノ病院 岸村 佳典

一般演題(ポスター発表)

第1日目 7月1日(土)

聴覚障害 11:40~12:10(質疑応答)

E会場(大学本館1F 学生ホール)

- 1P-01** 聴覚支援学校在籍児の実情および地域支援の状況について
—東北地区を対象として—
東北福祉大学 教育学部 茂木 成友
- 1P-02** キュードスピーチ併用下の聴覚障害児の音韻意識の発達状況と
関連要因の検討
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 渡部 杏菜
- 1P-03** 聴覚障害児と ASD 児の談話能力と視線の特徴の関連について
大塚ろう学校 岩田能理子
- 1P-04** 聴覚障害者の感情認知に関する一検討
—聴者との比較を中心として—
福岡教育大学 教育学部 特別支援教育研究ユニット 喜屋武 睦
- 1P-05** ろう重複障害幼児との双方向的コミュニケーションの促進に向けた実践
東京学芸大学 教職大学院 特別支援教育高度化プログラム 樋口 珠音
- 1P-06** 聴覚障害者の英語に関するインタビュー調査(1)
—英語語彙習得を中心として—
東京学芸大学教職大学院 特別支援教育高度化プログラム 小林 汰門
- 1P-07** 通常学級で学ぶ重度難聴児への
音声認識を活用した文字情報支援の可能性と課題
つくば市立竹園東小学校 奥沢 忍
- 1P-08** 聴覚障害者の英語学習におけるつまずきと自己効力獲得についての一事例
山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科 筑後 紅音
- 1P-09** 加齢に伴う聴覚情報処理能の変化に関する検討
医療法人三九会 三九郎病院 野中 小夢
- 1P-10** 大学生の雑音下聴取困難スクリーニング検査のカットオフ値の検討
医療法人偕行会 名古屋共立病院 仲田 祐芽

1P-11 Correct Information Unit を用いた研究報告について：
スコーピングレビューによる検討

東京工科大学 医療保健学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 川上 勝也

1P-12 AphasiaBank 日本版の構築に向けて

東京北部病院 飯塚 直子

1P-13 右後大脳動脈領域梗塞で大脳性色覚障害を呈した1例

公立陶生病院 中央リハビリテーション部 言語訓練室 山崎 由香

構音障害・発話障害(小児・症例) 16:00～16:30(質疑応答) E会場(大学本館1F 学生ホール)

1P-14 小学校言語障害通級指導学級への医療専門職の訪問事業により
教育と医療の連携が奏効した1例

昭和大学歯科病院 リハビリテーション室 多々良絃子

1P-15 系統的構音訓練により発話明瞭度が改善した脳室周囲白質軟化症の1例

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 川崎市南部地域療育センター 早川 侑希

第2日目 7月2日(日)

発達・発達障害 11:20～11:50(質疑応答)

E会場(大学本館1F 学生ホール)

- 2P-01** 自閉スペクトラム症児・者における語用能力の長期発達：
幼児期から成人期までの成長曲線

金沢大学子どもこころの発達研究センター 大井 学

- 2P-02** 知的障害児の文理解力は障害のタイプで異なるのか？：
等位節文と関係節文を用いた検討

東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 発達支援講座 竹尾 勇太

- 2P-03** 2歳児の名詞語彙における各語彙の表現形式の出現率とその特徴について

聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科 小坂 美鶴

- 2P-04** 小学2年生における心の理論の発達と会話場面での親による心的状態の語り

熊本保健科学大学 保健科学部 井崎 基博

- 2P-05** 児童発達支援事業所に通う幼児への DropTap 導入への試み

ステラ幼児教室 星野多美子

重度重複障害 11:20～11:50(質疑応答)

E会場(大学本館1F 学生ホール)

- 2P-06** 重度四肢麻痺及び重度ディサースリアに情動不安定を伴った症例
～書字に取り組んだ変化～

医療法人十全会 おおりん病院 リハビリテーション室 横山 典子

発達・基礎研究 14:00～14:30(質疑応答)

E会場(大学本館1F 学生ホール)

- 2P-07** 感覚の感受と聞き取り困難感の関連性：
感覚の自己評価と他者評価の違いによる検討

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 佐々木香緒里

- 2P-08** 英語の読みの困難さの質的検討
— 認知神経心理学的情報処理モデルに基づいて —
北里大学 医療衛生学部 上岡 清乃
- 2P-09** 知的障害児と定型発達児における項および格助詞の使用の特徴
東京学芸大学 教育学部 特別支援教育教室 村尾 愛美
- 2P-10** 個別指導場面における言語聴覚士との対話的かわりが
積極的変容をもたらした一例
在宅ケアサポートみちくさ 石田 彩
- 2P-11** 「ことばのつかいかたテスト」(TOPJC)による語用能力の横断的検討
山梨英和大学 人間文化学部 槻館 尚武

養成教育 14:00～14:30(質疑応答)

E 会場(大学本館1F 学生ホール)

- 2P-12** 言語聴覚士を目指す学生の学外臨床実習における他職種との関わりが
多職種連携意識に及ぼす影響について
社会医療法人厚生会 多治見市民病院 酒井真菜美

他職種との協働 14:00～14:30(質疑応答)

E 会場(大学本館1F 学生ホール)

- 2P-13** 言語聴覚士と保育士の協働に関する一考察
— 保育所保育指針における領域「言葉」の再解釈を通して —
旭川市立大学 短期大学部 幼児教育学科 熊田 広樹

特別講演 1

わかりあえないことから
—コミュニケーション能力とは何か?—

平田 オリザ

芸術文化観光専門職大学

座長：工藤 芳幸（関西福祉科学大学 保健医療学部）

7月1日(土) 9:00～10:30

講演会場（大学4号館104）

演者 プロフィール

平田 オリザ(ひらた おりざ)

1986年国際基督教大学 卒業(教養学士)、(兵庫県立)芸術文化観光専門職大学 学長。

劇作家・演出家・劇団青年団 主宰。

こまばアゴラ劇場、江原河畔劇場 芸術総監督。

2000年より桜美林大学 文学部 総合文化学科 助教授、2006年より大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 教授、2013年より東京藝術大学 COI 特任教授などを歴任。

受賞・受勲：

1995年 『東京ノート』で第39回岸田國土戯曲賞 受賞

2006年 モンブラン国際文化賞 受賞

2011年 フランス文化通信省より芸術文化勲章シュヴァリエ 受勲

2019年 『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞 受賞

著 書：

『わかりあえないことから』（講談社現代新書）

『演劇入門』（講談社現代新書）

『演技と演出』（講談社現代新書）

『下り坂をそろそろと下る』（講談社現代新書）

『芸術立国論』（集英社新書）

『ともに生きるための演劇』（NHK 出版）

『名著入門 日本近代文学50選』（朝日新書）

『新しい広場をつくる』（岩波書店）など

一般演題

(口頭発表)

1A

第1日目 7月1日(土)

A会場(大学4号館205)

1A-01

ジョリーフォニックス(JP)指導効果検証の 試み

—JP 受講の有無が及ぼす影響：
中3時の成績比較から—

入山 満恵子¹⁾、加藤 茂夫¹⁾、山下 桂世子²⁾、
渡邊 さくら³⁾

- 1) 新潟大学 教育学部
- 2) 英国 Ashbrook School
- 3) 南魚沼市教育委員会

【はじめに】2020年度から開始された小学校高学年での外国語教科化に伴い、英語の読み書き指導が正式に開始され、現場では効果的な指導法が模索されている。一方で、以前から中学校英語に関して、英語学習に困難を抱える生徒が一定数存在することが明らかとなっており(ベネッセ, 2008他)、その背景に英語の持つ微細で複雑な音韻体系が文字と音の習得をより難しくしていることが指摘されている。津田ら(2014)は、英語の初学習者を対象に、英語の語彙とスペルの知識、英語音韻意識の関係性について検討し、日本語母語話者の英語習得には英語の音韻知識が必要で、英語を日本語のモーラでとらえがちな子どもたちは結果的に英語の語彙力が低いことを指摘している。したがって、小学校では英語の「音」と「文字」の指導を徹底し、英語の読み書きの土台を形成することが重要である。そこで本研究では、小学校高学年時から統合的フォニックスの教材の一つ、ジョリーフォニックス(以下、JP)で英語の「音」と「文字」指導を実施している子どもたちについて、進学した中学3年時の英語課題の成績から指導効果を検証した。なお、本調査に際しては現場責任者に書面説明の上、実施とデータ公表等の了承を得て行った。

【方法】対象はA県B市の中学3年生(調査時)で、小学校でJP指導を受講していない127名をC群(対照群)、6年時に半年間JPを受講した118名(実験群)をD群とし、両者の中3時の同一課題成績を比較した。実施課題は「音くらべ」「音かぞえ」「無意味語」「基礎音」「文法性判断課題」(20問)「語彙課題」(30問)の計6種であった。

【結果と考察】6種の課題のうち「文法性判断課題」を除く5種でD群の成績がC群を有意に上回った。文法課題もD群が高かったが、有意差はみられなかった。結果より、短期間のJP指導でも、読み書きの学習初期に文字と音の繋がりを築くことで、その後の語彙習得を促進することが示唆された。

1A-02

ディスレクシアの子が楽しく通える学校とは

横山 真司、出村 鼓美
NPO法人オルケスタ ぐるぐる

読み書きに多大な困難を抱えながらも、楽しく登校している小学校4年女児を通して、ディスレクシアの子が楽しく通える学校について紐解いていきたいと思う。

【背景】ディスレクシアと不登校の関連性について、小枝(2001)は小学校180校のうち診断のあるLD、ADHD児の不登校の割合を調査しており、結果LD児が35%、ADHD児が2%が不登校となっているとしている。また、ディスレクシアと語彙獲得の関連性について、水田・川崎ら(2020)は、LD児はデコーディングの困難により結果的に読む機会が少なくなり、活字を読むことで可能となる語彙の発達や語彙発達の背景となる知識の増大を二次的に妨げることにつながるとしている。

【症例】

CA：10歳7か月

診断名：自閉症スペクトラム、ADHD 知的に大きな遅れはなく、不注意・衝動性を服薬でコントロールしている。

【問題点】①読み書きによる学習が中心の学校で、学習困難による不登校リスクの増加 ②読めないことによる、語彙獲得や知識増大の二次的な妨げ

【課題】①学校の理解と環境設定の提案 ②家族の理解と情報提供 ③本人の特性に合った文字獲得・語彙獲得手段の検証

【取り組み】①保育所等訪問支援での、学校との情報共有 ②家庭への障害像の理解の促し、家庭学習の助言、ICT機器の情報提供 ③本人の特性に合わせた文字獲得手段の提案、語彙を増やす目的とした読み聞かせ機会の提供

【結果】①通常学級は板書のコピーの配布や、全生徒がルビ付きのテストになるなどの対応がされた。支援学級は宿題の設問を予め転写したノートを配布された。②作文の宿題は内容の想起・構文・書字に分けた対応、家では書字・読字の機会にいつでも使用できるようにと本人専用のiPadを設置している。③文字獲得手段の提案に対しては成果に乏しく、仮名文字は学校生活の積み重ねの中で獲得している。

現在の本人の様子は、新聞係に立候補するなどして意欲的に学校生活を楽しんでいる。

第49回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会
予稿集

2023年5月24日発行

発行者：第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会長 工藤 芳幸

開催事務局：〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11番1号
関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻
E-mail：jacd49osaka@gmail.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 事務局

関西福祉科学大学保健医療学部
リハビリテーション学科言語聴覚学専攻

事務局長：不破 真也

FAX: 072-978-0377(代表)

E-mail: jacd49osaka@gmail.com